

都道府県番号	5
都道府県名	秋田県

【 】

学校名及び規模

学校名	五城目町立五城目第一中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数 21
学級数	4	3	3	0	10	
生徒数	103	104	112	0	319	

研究の概要

(1) 研究主題

自ら課題を見付け，解決できる力の育成
～一人一人の学力を伸ばす指導方法の工夫～

(2) 研究主題設定の趣旨

自ら課題を見付け解決できる力を育成していくためには，基礎・基本の確実な定着を図り，生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を工夫し，問題解決的な学習の実践に重点をおいて取り組まなければならないと考える。そこで，効果的な指導内容や指導方法を工夫し，生徒にとって「分かる授業・楽しい学習」を展開することにより，自分なりの考え方や解き方で課題解決できる力を育成していくことができるのではないかと考え，本研究主題を設定した。

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫

- ・研究推進委員は，校長，教頭，研究主任（学習指導主任），道徳主任，特活主任，総合学習主任，情報教育主任とし，学力分析対策委員を兼ねる。
- ・学力分析対策委員会では，県の学習状況調査を分析し，全体の傾向や特徴，課題を明確にする。各教科でさらに細かく分析し，定着率が高かったものについては効果的であった指導方法を，定着率が低かったものについては授業改善の具体的な方策を明らかにし，全校体制で学力向上に取り組んでいく。
- ・少人数指導やＴＴ指導に取り組んでいる数学，理科，英語を窓口にするが，本校では，すべての教科において学力向上に向けて，学習指導の工夫改善を推進している。

(2) 研究の実際

共通実践事項

- ・教科の壁を越え，全校体制で共通実践ができるように，あるいは，全職員で共通理解し，研究に取り組むことができるように，「導入の工夫」と「きめ細かな支援の工夫」の２つを共通実践事項と定め，日々の授業に盛り込んできた。
- ・導入を工夫することにより，生徒に課題をしっかりとらせることができ，生徒の学習意欲の向上につなげることができた。さらに，授業の展開や終末でも生徒が新たな課題を見付けるなど，主体的な学習や課題解決的な学習に結び付けることができた。

理科（２年）
電源がないのにコイルをつないだ電球がなぜつくのか，電球に明かりがつく現象の演示実験をする。

英語（２年）
生徒が give + 人 + 物の意味と語順を予想できるように，例文を工夫したり，教師が演示したりする。（Santa Claus gives children presents. Momotaro gives a monkey a kibidango. 等）

- ・少人数指導やＴＴ指導をはじめ，個々の生徒に対応したきめ細かな支援の工夫により，生徒が「これまで分からなかったことが分かった」「これまでできなかった

たことができるようになった」「勉強が楽しい」と実感できるような授業実践に結び付いた。

数学（２年）

習熟の程度に配慮したグループを編成し、そのグループに合った操作活動を準備することにより、多様な考えを引き出し、互いに認め合い、磨き合えるよう支援する。（コースごとに、時間をかけて確実に...、模型を使って...、自由な発想を優先して...。）

TTI作戦

本校では、楽しく分かりやすい授業づくりを目指して、TTI作戦（私の創意・工夫点）に全校体制で取り組んでいる。一人の教師が、一つの学期に、一つの創意を（Teacher Term Idea）ということで、TTI作戦と名付けている。すべての教師がそれぞれの教科の単元や題材にとらわれず、全教科で共有化できるような創意・工夫点を出し合っている。

社会（１年）

・授業の終わりに5分を利用して問題づくりをし、その問題を単元の終わりに、難易度に応じて種類分けし、ステップアップ方式で習熟度別学習を実施する。

基礎的コース

発展的コース

物知りコース

先生からのヒント、アドバイス

問題作成者のヒントカード

数学（３年）

・単元末問題を解くときに、習熟度別学習を実施する。

・次の3つのコースに分かれて、問題を解く。

{	自分一人で調べて解決	ばりばりコース（深化・発展）
	友達と協力して解決	がんばりコース（活用・習熟）
	先生のアドバイスを受けて解決	じっくりコース（補充・回復）

授業づくり協力者

近隣の中学校から各教科（国語，社会，数学，理科，英語）2名ずつ、授業づくり協力者としてお願いした。授業についての検討会などを通して、各教科の研究に大いに役立つとともに、研究成果の普及にも効果的であった。

(3) 研究の成果と課題

成果

- ・導入の工夫，学習課題の明示により，興味・関心が高まり，意欲的に学習に取り組んだり，主体的に活動したりするようになった。
- ・生徒の学習の習熟の程度に応じて少人数学習を行うことにより，学習内容を確実に身に付けることができ，解けなかった問題が解けるようになったなどの変容が認められた。

【学習の意欲等に関するアンケート】

ア 全校生徒を対象にした集計結果から

	7月実施	12月実施
学校が好きだ	69.1%	69.3%
勉強がきらいだ	60.2%	52.5%
勉強は大切だ	87.9%	88.6%
学校の勉強が分からない	33.4%	24.4%

イ 少人数指導やTT指導を受けている生徒を対象にした集計結果から

	7月実施	12月実施
数学が好きだ（2年生）	67.0%	70.9%
数学が好きだ（3年生）	49.1%	58.6%
理科が好きだ（2年生）	86.4%	74.8%
理科が好きだ（3年生）	70.9%	77.5%
英語が好きだ（2年生）	25.2%	36.9%

- ・7月に実施したアンケートから，69%の生徒が「学校が好きだ」と答えているものの，60%は「勉強がきらいだ」と答えている。また，88%の生徒が「勉強は大切だ」と考えているものの，33%は「勉強が分からない」と悩んでいることが確認されたが，12月実施の集計結果からは，いずれも好ましい方向に変容している

